

6. 漢字を特別扱いしない読解指導

初めて読む文は、かなばかりの文だと、なかなか読めるものではありません。文字をただ発音してだけで、それをまとめて言葉として捉え、さらに文として捉えることはなかなか出来ません。

それで、“読解指導”ということがあるわけです。漢字だと、教えられない限り読めませんが、一度教わりますと、初めから文字を言葉として掴むことが出来ますので、すぐにすらすらと読めるようになります。

「提出したから覚える」は禁物

漢字を取立てて、特別に指導しないのが石井方式の特徴です。ただ、読めないで、つまづいている時に、その読み方を教えるだけです。意味が解らないようだったら、意味も教えます。

決して、初出で、その漢字が読めるようにしようと思っはいいけません。一度学習した漢字が、二度、三度繰返されて、それで読めないでいても、やはり最初の時と同じように、優しくその読みを教えるのです。

そして、繰返し、繰返し提出して、何十回になろうとも、読めて、頭

にはっきりと刻み付けられるようになるまで導くのです。

読めるようになったら、ますますそれを読む機会を作って習熟させます。算数の文章題に、理科や社会科の説明に、掲示に、あらゆる機会を求めてその漢字を使用することに努め、自然と習熟させるのです。そうすれば、字形についての認識も、しだいに深まっていきます。

その言葉と共に、字形も思い浮べられるほどに習熟した頃を見計らって、“書く”指導を行います。すでに頭の中に描けるようになった漢字を、どこから書き始めて、どのように完成させるかを教えるのです。

従来の“書く”学習と違って、いっぺんに整った字を書くようになります。子供たちも楽しんで書きます。

「提出したから覚える」ではなく、出来るだけ、目に触れる機会を与えて、確実に習得させよう、という考えなのです。これが、石井方式です。